

平 山 橋

ひらやまばし

丹沢山の東、丹沢大山国定公園にふくまれる山並みに源を発する中津川を愛甲郡愛川町・清川村の地先でせき止め、神奈川県の大域水道の水の確保、また流域の洪水調節のため、宮が瀬ダムの工事が平成8年度完成を目標に進められている。湛水面積4.6km²、総貯水量1.9億トンと計画される高さ155mの大ダム工事で、ダムの下流にしつらえている展望施設からは、現代土木技術の粋を集めたこの大工事の様が見渡せる。

手頃な距離にある美しい渓谷でもあり、横浜からは観光とダム工事見学のバスなども出ていると聞く。この山間もここしばらくは賑々しい様を呈しているが、ダムが出来上がれば、湖と渓谷の静かで自然豊かな公園のたたずまいを見せることになる。ダム建設にともなう道路の付け替えによって、新しい橋がいくつも架けられている。またダムの下流の地域も色々な整備計画があり、道路もそれにしたがって改修、橋の架け替えの計画も立てられた。

平山橋はその中の一つ、県道相模原愛川線が愛川町田代地内で中津川を横切るところに架かっている。上流からの橋を中心とした眺めは広々とし、上流左岸には新しく田代運動公園が造られ、右岸の河原には中津川漁業協同組合の鱒養殖の池がならんでいる。

ダムからこの橋までに4つの道路橋がある。まず上流から昭和44年（1969）の愛川大橋。連続の鋼桁橋とコンクリートラーメン橋からなる延長148mの橋だが、上路橋のため車で はさっと通り過ぎてしまう。続いて昭和5年（1930）の支間61m 曲弦ワーレントラス日向橋。その次が昭和49年（1974）の溶接構造の平行弦ワーレントラスと桁橋の愛川橋。最後に大正15年（1926）の支間46.28m 曲弦プラットトラス馬渡橋となる。この橋は橋詰めにある櫓の巨木を前景に、左岸の淵、岩肌が橋下を通して見られ、か細い部材のこの橋を中に して、絵になる風景である。

その下流にある平山橋は、支間34.56mの曲弦プラットトラスが3連並ぶが、左岸のトラスには大正2年（1913）、右岸のトラスには大正15年（1926）の銘板が付いている。また右岸の別の銘板には、製作は東京月島の安藤鉄工所とある。この工場は、大正7年（1918）から昭和50年（1975）まで、橋梁製作の実績のある工場である。最近確認された大正2年3月20日の平山橋開通記念の絵葉書には、左岸に1連鉄製トラスが見え、他は木桁橋である。となると、大正2年の左岸のトラス1連はどこで造られたのであろうか。

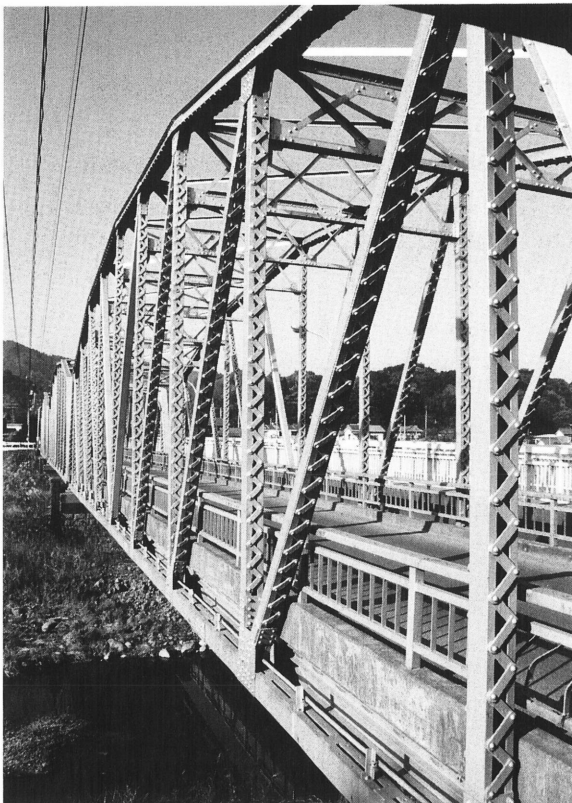
斜材や床桁は溶接で補強され、下弦材のレーシングはタイプレートに代えられてはいるが、元の形はよく残っている。大正2年に日本で製作したリベット構造のトラス橋とすれば道路橋としてはめずらしいものである。 [T J]

竣工年月：左岸の1連に大正2年、右岸の1連に大正15年の銘板がある
所在地：神奈川県愛甲郡愛川町
河川名：中津川
橋長・幅員：114.9m × 4.5m
径間数・支間長：3 × 34.56m
形 式：下路プラットトラス

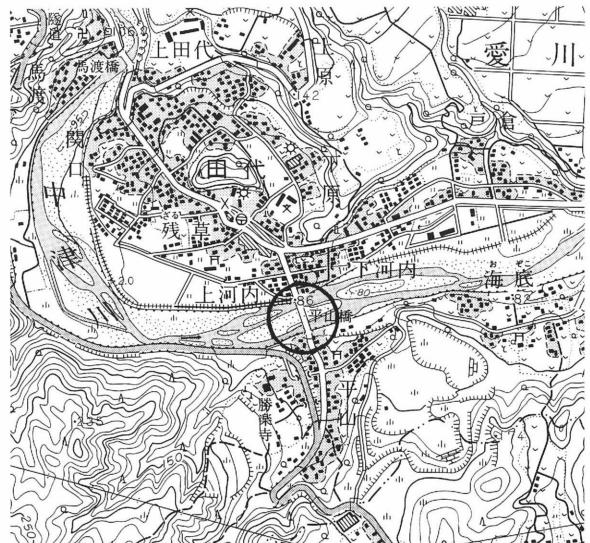


右岸上流側より写す

〈1993年11月，撮影・共に田島二郎〉



左岸上流側より写す



(1:25,000 上構)